

## 平成23年度手づくり看板全国コンクール 審査講評

全国農協青年組織協議会が主催する平成23年度手づくり看板全国コンクールには、全国31都道府県から79作品の応募があり、平成24年1月24日(火)に東京・大手町のJAビルで審査会を開催しました。作品募集テーマは例年どおり「農業のある地域づくりの大切さを地域住民へアピールできるもの」とし、テーマに即した訴求力、インパクト、デザイン力(手づくり感)などの視点から審査を行いました。

審査会では、全国消費者団体連絡会、JA全農、JA共済連全国本部、農林中央金庫、日本農業新聞、家の光協会、農協観光、JA全中の各団体からお集まりいただいた8名の委員で審査を行いました。審査委員長は互選により、各地の青年部活動を記事として取り上げていただいている日本農業新聞で広報局長を務められている有江金次郎氏が選ばれました。

各作品ともそれぞれに個性のある力作ぞろいであり、特に賞に選ばれた作品は甲乙つけがたく、審査委員会における協議は難航しましたが、看板部門の最優秀賞1点、アート部門賞1点、各団体の賞となる特別賞8点が選ばれました。

審査の結果、最優秀賞には「JA庄内たがわ青年部 櫛引支部(山形県)」の作品が選ばれました。「んめ農(のう)山形めしあがれ」というメッセージは、「んめ(おいしい)」という方言と、「めしあがれ」という言葉を組み合わせることにより優しさのある温かいメッセージとなっており、消費者と生産者とのつながりが強く感じられました。また、看板を見た人が元気で笑顔になるような絵とメッセージが高いレベルでマッチしており、自分たちが作った農産物を多くの人達にたくさん食べてもらいたいという思いが伝わってくる点が高く評価されました。

アート部門賞には「JA中野市青年部(長野県)」のモザイクアート作品が選ばれました。普段はリンゴの集荷に使用しているコンテナを積み上げた作品で、「食はオレたちが守ります」というメッセージに強い意思が感じられました。また、1,000個以上のコンテナを積み上げるという青年部らしい制作過程と、遠くからでもはっきりとメッセージが伝わるインパクトの強さが高く評価されました。

全国消費者団体連絡会賞には「JAくにびき青年連盟（島根県）」の作品が選ばれました。3コマのマンガ風の形式をとり、TPPについての理解とPRを兼ねた内容の看板で、手づくり感とユーモアがあふれており、TPPに反対する強いメッセージを、ついつい何だろうと足を止めて「読ませる」力の強さが評価されました。

JA全農賞には、「JAいわて南青年部 永井支部（岩手県）」の作品が選ばれました。消費者と流通業者、生産者の満面の笑顔と「空の恵み 大地の恵みそして たくさんの人に ありがとう」というメッセージが描かれた看板で、消費者と流通業者、生産者の満面の笑顔と「ありがとう」という言葉が、元気とつながりを強く印象づけている点が評価されました。

JA共済連賞には、「JAあいづ青年連盟（福島県）」の作品が選ばれました。「地域密着 ふくしまと生きる！」というメッセージが強調された看板で、シンプルながらも、逆境に負けずに復興の取り組みを引っ張っていく強い決意が伝わってくる点が評価されました。

農林中央金庫賞には、「JAならけん青壮年部 天理・山辺支部（奈良県）」の作品が選ばれました。地元の特産物を大きく口をあけて食べている子供を描いた看板で、見ていて楽しく元気がでること、なによりおいしそうに農産物を食べている子供が強く印象に残ることが評価されました。

日本農業新聞賞には、「JA東京あおば青壮年組織協議会（東京都）」の作品が選ばれました。「都市農地 知られざる重要性」というメッセージにより、都市農地が食料生産だけでなく様々な役割があること、とりわけ災害時の避難場所であることを地面から見上げるようなインパクトある構図で表現することで、都市農地の重要性を地域住民にアピールしている点が評価されました。

地上賞には「JAやまがた青年部 出羽支部（山形県）」の作品が選ばれました。「勇気野菜 山形から元気を届けます！」というメッセージにより、消費者に対し、「有機野菜」は身体を元気にするだけでなく「勇気」も与えてくれるという思いがストレートに伝わる点が評価につながりました。

農協観光賞には、「JA江刺青年部 田原支部（岩手県）」の作品が選ばれました。「つくる楽しみ 食べるよろこび」というメッセージが、次世代の子供た

ちに対する思いをストレートに表現している点と、おにぎりを頬張る子供の笑顔や全体構図のバランスの良さが評価されました。

J A全中賞には、「J Aみやぎ仙南青年部 川崎地区（宮城県）」の作品が選ばれました。東日本大震災の復興に向けた強い意気込みと、ご飯をしっかり食べることにより、頑張る力が出てくるというメッセージが込められていること、色使いなど看板としてのインパクトが強い点などが評価されました。

今回のコンクールに寄せられた作品は、その一つ一つから制作に携わった盟友が看板に注ぎ込んだ想いがよく伝わってまいりました。特に看板に書かれたキャッチフレーズの工夫や、農業体験を実施した小学生と共同で制作するなどの制作過程に審査員は興味を惹かれておりました。

また、今年度よりアート作品にはアート部門賞として賞を設けましたが、こちらにも数多くの作品が寄せられ、受賞作品以外にも田んぼアート、ロールアート、サンドアートやグリーンカーテン、中にはペットボトルのキャップを使った看板や農産物等を使ったユニークなかかしなど、昨年にも増して多様なアイデアが注ぎ込まれた作品が寄せられました。

一枚の看板制作が、地域・仲間を結び、道行く人へ食と農業への理解を深めてもらうきっかけとなります。今後も本コンクールの開催が看板制作の励みになること、そして青年部の看板が全国各地に建てられ、日本農業の情報発信源となり続けることを願ってやみません。